



発行：NPO法人とよなか市民環境会議「アジェンダ21」
編集責任者：奥野 享
事務局：豊中市環境情報サロン内
〒561-0804 豊中市曾根南町1-4-3
Tel:06-6863-8792 Fax:06-6863-8734

この号のハイライト

P. 1 特別理事会・理事長あいさつ
／P. 2 総会、講演会／P. 3 とよっ
ぴー祭り／P. 4 ごみ学習会／P.
5 千里川植物調査／P. 6 エコツ
アー／P. 7 環境政策室／P. 8 機
密書類リサイクル

2005年(平成17年)9月号 NO. 12 (通巻第30号)

特別理事会・アジェンダ改定版を前に鋭い討論

6月22日午後4時から、環境情報サロンで特別理事会を開催。2005年の総会を前にして、この間に、取り組んできたアジェンダ21改定版を中心課題にし、1年間を振りかえっての議論をお願いしました。特別理事会はいわば顧問団のような性格のもので、この間に取り組んできた活動について年に1回は色々な角度から意見をもちょうことにしています。

まず出された意見は「アジェンダであるからには、最終目標と手段となる目的・目標とを区別

して考えたい」。——確かに、新しい88項目の行動提案の一覧表では優先度・難易度を示し〈すぐできる〉課題や〈少し難しいがやらなければならない〉などと目標について区分をしていますが、最終目標とするところがどこなのか、明示することがより分かりやすそうでした。その点は、今後普及版を作るときの検討課題でしょう。

「これまでのアジェンダ21についてもどれだけ成果があがったかを書くことも大事だろう」——この点については、アジェンダ改定版の議論をはじめたとき

に、かなり細かく議論し、環境展などの機会に広く市民の投票（各項目にシールを貼ってもらった）をお願いしました。改定版作成の経過説明には入れられるでしょう。

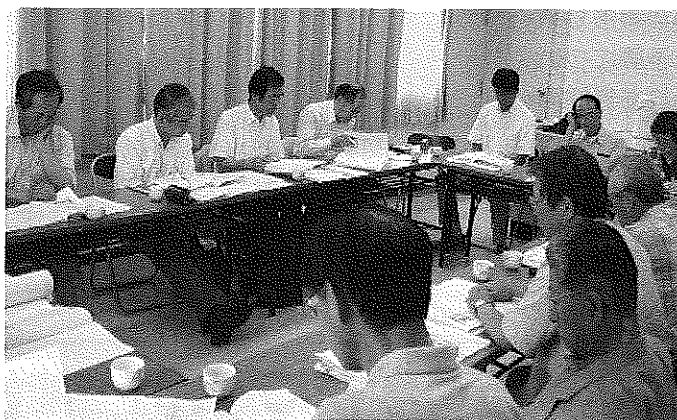
「アジェンダ21の行動提案は、誰が誰のために約束しているのか」——確かに分りにくい点です。最初につくったとき以来、行動提案の主体は市民環境会議でしたが、今回の改定は私たちのNPOが具体的な作業を担当してきました。だから運動としてはより広がり

をもったものを構想しています。

アジェンダ21も新しい運動として4つのプロジェクトを立ち上げるなど、これまでの活動の殻に小さくまとまることなく、より広がりをもった運動をめざすなど、夢をもった取り組みについて説明しました。

なお、この日参加された特別理事は、高田直俊さん、直田春夫さん、平尾和さん、西川民義さんの4人でした。

アジェンダ21の改定版はその後6月30日の市民環境会議総会で正式に決定されました。（奥野享）



「軽やかに粘り強く」 理事長 新開悦子

河野理事長の退任で、重責を引き受けることになり、身の引き締まる思いです。

今年の4月、フジサンケイグループ主催の第14回地球環境大賞環境市民グループ賞を受賞しました。その報告会で、「この賞は、アジェンダに結集している会員と応援してくれた市民の皆さんの努力、それにNPO法人になる間ご協力いただいた行政、事業者の皆さんの支援の成果」と、河野さんが話されたことに、私もまったく同じ思いです。

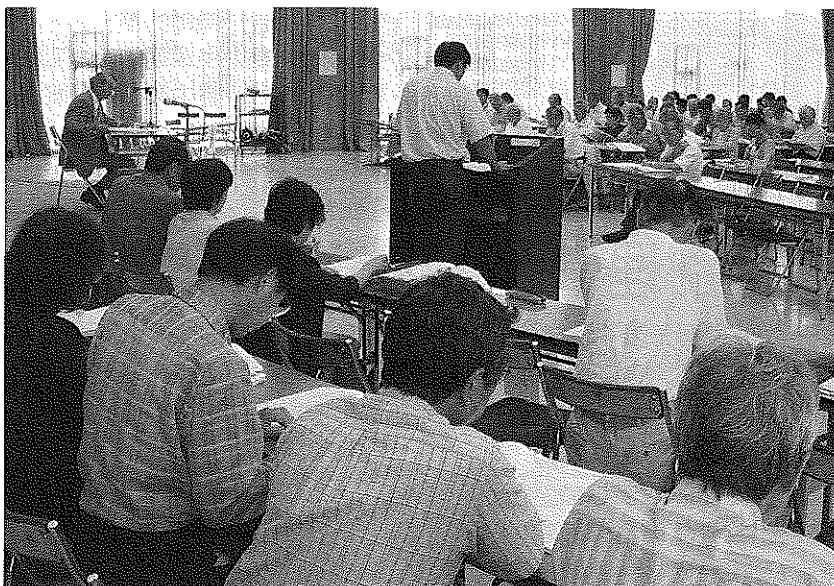
ところで、NPO法人に脱皮して1年半経った現在、「豊中アジェンダ21」の中間見直しも終え、地球環境を視野にいた持続可能な地域社会を実現すべく、88項目の行動が提案されています。皆様により一層のご活躍を期待いたします。「協働とパートナーシップ」の基本精神のもと、会員、立場の異なる市民や行政・事業者の地道な活動を支えに、88項目の実現にむけて軽やかに、そして粘り強く努力する決意です。どうかよろしくごお願い申し上げます。

NPO法人アジェンダ21の05年度総会を開きました

NPO法人アジェンダ21は、6月30日15時30分から2005年度総会を豊中市立市民会館で開催しました。出席者は会員83人、委任状が62人で会員総数177人の過半数を超えて成立していることを確認。河野猪太夫理事長のあいさつに続き、来賓として一色貞輝市長と市議会議長代理の岡本重伸副議長からあいさつを受け、議長に岸田興次さんを選出し議事にはいりました。

2004年度の活動報告・会計決算報告は事務局長井上和彦さんが報告、会計監査については中井健之さんが報告し承認。2005年度活動計画・予算については中村義世理事が提案しこれも質問意見なく決定されました。

最後に、総会決議事項ではありませんが、一身上の都合で理事長河野猪太夫さんが退任、新開悦子さんが新理事長へと変更になったことを報告し承認。新開理



事長から決意表明とともに新年度の役員体制の紹介があり、予定通り総会は終了しました。（奥野享）

「生徒が省エネすると学校に還元」 能村聡さんの話

とよなか市民環境会議・NPOアジェンダ21の合同総会に先立ち、「京都議定書発効と私たちの活動ー地域で進める地球温暖化防止ー」と題して、NPO法人環境エネルギー政策研究所の能村聡さんによる講演が行われました。能村さんは、京都のNPO環境市民や京のアジェンダ21フォーラムの事務局コーディネーターの経歴をお持ちの方です。

講演は、まず地球温暖化の影響と京都議定書発効の意味についてのお話があり、ひとつの解決策として自然エネルギーについて、各国と日本の取り組み状況の違いと、それを地域で考える必要性についてお話しされました。

地球温暖化防止はエネルギー問題であるということから、次に省エネについて、具体的な方法論を含めたお話になりました。ドイツのハム市では、学校で生徒が主体となって省エネを進め、削減されたコストの50%が還元される仕組みを作り、全校で省エネの取り組みが進みました。

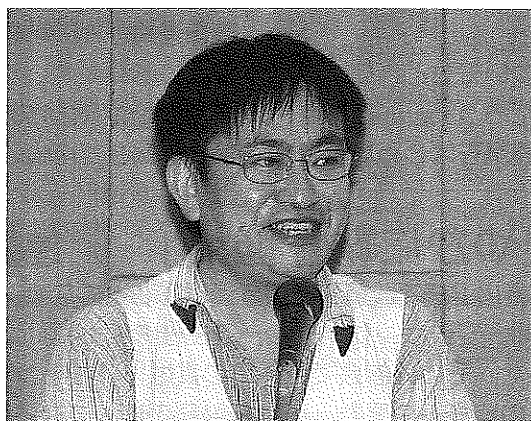
日本でも各地で広がっているのはグリーンコンシュー

マー活動で、日常的に誰もが行う買い物の際に、環境に配慮した商品を選ぶことによって、市場経済システムの中で環境負荷を低減する取り組みです。

例えば、家電製品で省エネ型を選ぶのに、その製品を使い続ける期間内の電気代を含めた価格を表示することによって、省エネ型の方が得をする場合があることをわかりやすく知ってもらうラベルが作られています。実際、このラベル表示によって省エネ型製品の売り上げが伸びたという実績もあり、メーカーも小売店も消費者も得をするうえ、地球温暖化防止にも役に立つという仕組みです。

続いて、自然エネルギーの普及に関する具体策についてのお話になりました。能村さんが現在取り組まれている長野県飯田市での市民共同発電事業は、市民の出資を募り、太陽光発電設備を公共性の高い場所に設置し、地域ぐるみでエネルギー政策を進めようというもので、他の各地でも同様の取り組みが始まっています。

（井上和彦）



とよっぴー祭り

花と緑のネットワークとよなが

とよっぴー配布コーナー



「豊中市緑と食品のリサイクルプラザ」の開設3周年を記念して去る7月2日(土)、花と緑のネットワークをはじめ趣旨に賛同する農業者、花いっぱい運動グループの有志、豊中市の労働組合関係者、ボーイスカウト、行政などの参加による「とよっぴー祭り」が同所で開催されました。

り、大いに盛りあがった祭りとなりました。

この日に向けて2月から準備してきたプレ事業である「じゃがいも里親制度」では、同所に開墾した畑において子育て支援センターほっぺ、原田保育所、ボーイスカウトの子どもたちが自分で育てたじゃがいもを無事収穫、なかには320グラムのジャンボじゃがいももあって歓声があがりました。このほか花の種の提供、クラフト、ヨーヨー釣り、きき水体験、綿菓子、とよっぴーで育てた野菜を活用したカレーライス販売、さわ病院による健康相談コーナーなど多彩な出店があり、賑わいました。とくに、とよっぴーの無料提供は相変わらずの人気で用意した分はすぐなくなりました。ま



開店準備中、カレーは完売

た、祭りの最後に実施した抽選会は、とよっぴーで育てたお米(1等米)、バラの苗木などが当たることもあり、来場者に好評でした。

終了後、実行委員会による反省会が行われ、みんなで成功を確認するとともに、今後も実施する方向で検討することになりました。

なお、祭りに際しポスター、案内ピラ、看板類をすべて手作りで作成、ごみを排出しない環境に配慮した祭りでした。(中村義世)

雨の中じゃがいもの収穫



当日はあいにくの雨に見舞われ出足が心配されましたが、それも杞憂におわり延べ500人の来場者があ

学校給食に青ネギを提供

6月22日及び7月8日の2回、小学校の給食に地産の「青ネギ」が提供されました。これは市内浜で10年以上にわたって有機野菜栽培に挑戦しておられる光久隆晴さん(花と緑のネットワーク会員)が出荷されたものです。

花と緑のネットワークでは「とよっぴー」を活用した有機性資源の地域循環形成の取り組みを進めています。とくに、学校給食残渣と剪定枝による堆肥化事業の理念を実現するため、学校から排出された残渣(生ごみ)で育てた野菜を給食の食材に戻すことを追求してきました。その結果、学校給食にかかわる栄養士さ

ん、給食会・給食センターの関係者、JA北部などの協力を得て実現したものです。

昨今「食育」の一環として「地産地消(地域の作物を地域で消費)」の取り組みや、有機野菜類の学校給食への提供が広がっています。豊中でも今回はじめて地域のものは地域に返す、しかも有機性資源を焼却しないで作物づくりに活かすことが実ったもので、資源循環の第1歩を踏み出したものといえます。

現在、この成果を次に発展させようと地場産米を提供できるよう協議を進めていますが、前出の光久さんも、今後も出荷する意欲をもっておられ、「食育」の観点も含め、花と緑のネットワークではこの活動を広げることになっています。(中村義世)

学習会「ごみは減っている？」 生活部会

アジェンダ21生活部会ではエコライフカレンダーモニターの学習会として、7月22日にリサイクル交流センターで、減量推進課の池田一夫さんの話を聞き、いろいろなことを考えさせられました。当日の参加者は27名でした。

たかがごみ…されどごみ…

ごみ処理における二酸化炭素の排出は、他のエネルギー消費の際の排出に比べると低い割合ですが、市民の関心は高く環境を考える上であなどれない問題です。

右下の表で見ると家庭系ごみの排出量は減り続けています。これはそれぞれに対策があった結果です。平成16年に指定ごみ袋制。また平成13年からプラスチック容器



包装のモデル地区収集をはじめ、平成16年にはモデル地区の拡大など、ごみは先手々々に対策を取っていないと、成り行きに任せていけば必ず増えます。

その対策の一つ、プラスチック容器の分別収集リサイクルは、豊中では現在27%の地域で行っております。ちなみに豊中市のプラスチック容器回収は、年間872トン、その内766トン(89%)が資源化されています。

増えつつけるペットボトル

昨年は記録的な暑さと、ペットボトル商品の多様化で、豊中市ではペットボトル回収量が前年より100トン増えました。前年比60%の増だそうです。

「便利さ、手軽さに慣れた生活習慣を考え直すことが必要」 マイバッグを持って出かけましょう。

今、リサイクル資源として出されたペットボトル、

古新聞は中国へも多く輸出されています。これは、今たまたま中国の好景気による需要の恩恵に与かっているだけで、将来的な保証はありません。中国の需要が途絶えたらペットボトル、古新聞はたちまち行き場を失ってしまいます。

毎日が生ごみ回収日・ごみの分別なし

そんなマンションが豊中にもあります。

豊中市民なのに市のごみ排出のルールを守らなくていいの？ そのカラクリは…。

市のごみ収集には次の3通りがあります。

- ①市環境部の職員による収集
 - ②委託業者→市の管轄で家庭系ごみを処理する
 - ③許可業者→事業系ごみの収集
- 上記のマンションは③の許可業者に処理費用を払って個別に契約しているのです。

(市の回収に戻す予定)

このマンションの住人は、自分の家さえきれいであれば地域の環境などに無関心なの？

——そんな気がしました。

人や生き物の命が大切なように、物の命も大切に。

(三宅典子)

豊中市の家庭系ごみの推移

年度	人口(人)	家庭ごみ(トン)	1人1日(グラム)
平成12年	391,726	101,545	710
平成13年	390,306	98,745	693
平成14年	389,620	94,690	666
平成15年	389,018	91,262	641
平成16年	388,065	87,368	617

地球温暖化で婦人団体へ出前学習会

7月15日(金)午前10時からすてっぷセミナー室に婦人団体40人が集まり、「私たちにもできる地球温暖化防止」のタイトルで学習会を持ちました。

アジェンダ21生活部会の奥野が講師をつとめ、地球温暖化の現状などを話すとともに、5グループに分かれてワークショップ、「あなたがやっている(これならできると思う)温暖化防止の活動」を書き出した

小さな紙を分類しつつ貼りつけ、全員でどんな活動ができるかを考えました。

ソーラーパネルをつけるなどちょっと出費はかさむけど効果の大きい温暖化防止の暮らしや、まめに部屋の電気を消すとか、ちょっとの距離なら歩くとか、軽自動車に買い替えるとか、あるいは自販機の飲み物は買わないなど、色々な提案がありました。(奥野享)

希少植物リスト作りのために千里川へ 自然部会

自然部会による希少植物リスト作りも今年で3年目を迎えました。過去2年間の調査の結果は今年3月5日にくらしかんで中間報告をしました。それまでの調査地は青池周辺、西泉丘、東泉丘、宮山春日神社の森など、自然的景観が比較的残されていると思われるところを選んだためか、ワレモコウやツリガネニンジンがまだ多くの地域で生育しているという意外な結果となりました。両種とも、どの地域でも株数が少なく、ひっそりと生きているという様子で、周囲の環境条件が少しでも変わると絶滅するのではないかと心配されています。

また調査メンバーが個々に観察している植物で、もうここだけにしかないのではと思うようなものがリストにあがってこないこともあるので、市内全域について充分把握するためには、今後可能な限り地域を多く選んで調査する必要があるということになりました。

中間報告の際に、この結果を豊中市としての施策につながるように生かしてほしいという意見が出されました。このことは調査の目的になっていることでもあり、市担当部局と情報を交換しながら保全について考えていくことにしています。

調査対象地域を拡大し、多くのデータを集めるために今年度も月1回くらいのペースで活動を続けています。これまでに千里中央公園、刀根山、島熊山、千里川箕輪親水公園の4つの地域を調べました。刀根山で

はこれまでの最多である174種を見ることができました。

7月6日は千里川を歩くことになりました。豊中駅に集合の後、千里川にかかる箕輪橋から親水公園に下りました。ここは階段があって河原に下りやすく、しかも川が蛇行しているので砂がたまっており、そこにたくさんの植物が育っています。調査メンバーはみんな河原にひろがってゆっくり進みながら見落としのないように調べていきました。

種不明のものも含めて95種まで見ることができましたが、そのうち1/3強が外来植物でした。河川敷に外来植物が多いとは聞いていましたが、これほど侵入しているとは思いませんでした。少なくなっているものとして注意を引くのはスミシ、ミソソバ、ヤブマオウ、カラムシなどでした。このあとは待兼山と千里中央公園の残りを調べる予定です。

(岡恒夫)



カラムシ

自然ふしぎ発見クラブ セミ穴とセミの抜け殻さがし

7月23日(土)は昨年につづいて2度目の「セミ」をテーマに実施しました。今回は情報サロンで先に「セミのふしぎクイズ」の問題を発表して、豊島公園を回りながら参加者に答えを考えていただくことになりました。盛りだくさんの「セミのふしぎ」を頭に抱え込んでの出発です。スタートはセミの好きな木、嫌いな木の説明です。ケヤキ並木のところに行き、何十個というセミの抜け殻が付いているのを見て参加者一同が数の多さに驚き、クスノキの大木ではセミ殻が1~2個しか付いていないのにまた驚き、クスのショウノウの成分の樹液を嫌うとの説明に一同納得。

新豊島川沿いの昨年と同じ一定区域内での「セミ穴とセミの抜け殻」さがしを参加者と共に行いました。子どもたちはセミの抜け殻どころか「あっ！イトトンボだ」「こちらは黄色いイトトンボ

だ」「やあ、やあ、こちらは青色だ」と追い掛け回して、「あれはシオカラトンボだぞ」と調査どころではなく虫取り網を持っておおはしゃぎでした。

情報サロンにもどって、セミの抜け殻をひろげて、

皆で数をかぞえました。クマゼミは64匹、アブラゼミは2匹の合計66匹。そして、抜け穴は28カ所ということを確認できました。去年の調査はクマゼミの殻7、抜け穴16カ所でした。去年の調査日は8月末の草刈り清掃後でしたので、数の比較は出来ませんが、予想通り、暑さに強いクマゼミの圧勝です。

温暖化でしょうか？原因はともかく、豊中の豊島公園は例にもれず暑くなっていることが、これでわか

りました。そして参加者全員おおいに汗をかき、暑い暑いテーマでした。参加申込は17名でしたが、出席は11名でした。

(岸田興次)



環境びっくり箱 親子で楽しくエコツアー 企画屋本舗

7月27日(水) 26人参加

前日の台風の影響か、午前中は曇り空で涼しく、午後からは急に気温が上がり晴れ間も広がりました。

「環境情報サロン」では井上事務局長が、サロンの役割、雨水利用のタンクを設置したこと、将来は太陽光発電もしてみたいとの説明がありました。

続いて「花とみどりの相談所」に行き、大西所長から、風力・太陽光発電による街灯についての話を聞きトンボ池でヤゴ(とんぼの幼虫)を捕まえたり雨水で草花に水やり体験もしました。次にバスで小曽根にある「ふるる(特別養護老人ホーム)」に行き、屋上に

上がりました。ここは入居者のリハビリや交流の場として、屋上一面に芝生が敷きつめてあります。全員が靴を脱いで、子どもたちは走り回り、大人たちは寝転がり、芝生の感触を楽しみました。

最後にツアー参加者と入居者が一緒に記念撮影。「お元気にしてくださいね」最初は見知らぬ多数の人で不安げな老人の顔が、子どもたちの笑い声でにこっとされたのは印象的でした。



ふるるの屋上緑化

次は上新田にある「あけぼのドロップス」に向かいます。バスの中ではおもしろクイズで楽しみました。例えば〇×ゲーム「お金をかけないで涼しくなる方法は？」答「部屋を暗くして、怖い話をする」この答え、あなたは〇ですか×ですか。

クイズも終わるとあけぼのドロップスに到着。まず冷たいお茶(おいしかったです)を出してもらい、太陽光発電・屋上緑化のお話を聞き、部屋まで上がっての見学。10年先を見越した建物には一同感心してしまいました。

ツアーの最後は今年4月にオープンしたリサイクル交流センターです。ここは

太陽光発電・雨水利用・建築資材に再生品の利用と、環境にやさしい施設です。

ここでワークショップを行いました。「ふるる」と「あけぼのドロップス」に人気が集中しました。しかし子どもの言った言葉が忘れられません。

「雨水を貯めるのに容器を買うの? バケツでいいのに」環境にやさしいとは何でしょう。少し考えてしまいました。(池田一夫)

環境とわたし

私にとって「環境」の意味は、以前と今では大きく違ってきました。以前は環境といえば、駅が近いとか、校区内にいい学校があるとか、近くに公園があるとか、生活環境的な面が殆んどでした。そのうえ、九州の田舎の農家の生まれであったためか、稲や麦、野菜以外は全て雑草で、邪魔なものとして刈り取るものでした。

会社勤めのころも、環境基金として毎月500円天引きされていました。その使い道にも全く無関心でした。会社を退職して、時間がたっぷりあるようになると、地球温暖化やオゾンホール、酸性雨等の新聞記事がよく目につくようになりました。孫が生まれた直後のことでもあり、この子らが大きくなったころ、地球はどうなるのだろうかと不安になって、環境問題の本などを少し読み始めました。ちょうどそのころ豊中アジェンダを知り、自然学習講座を聴いて自然部会に参加させて頂きました。部会の植物調査や鳥や虫の観察

佐々木忠弘さん

(自然部会・竹炭プロジェクト)



会、竹林の手入れ等々の活動を通じて、部会員の方々の博学と自然への思いの強さには圧倒されてしまいます。入会して3年足らずですが、草や木、鳥、虫などの名前も覚えては忘れの毎日です。まだ、環境問題についてもはっきりした主義主張があるわけではありませんが、ただ自然は人が手を加えずに保護していくものと、手を入れて保全していくものがあり、結局は環境は人次第でどうにでもなってしまうものではないかと思っています。

気がついてみると豊中はまたマンションが増えて緑が少なくなりました。人次第とはいえ、個々人の努力や力は余りに小さすぎて、空しさにとらわれますが、今や「環境」は、私の生活の大きな部分を占めるものとなりました。

環境の保全等の推進に関する条例を制定しました

新たな環境問題や市民意識の変化に対応するため、昭和48年に制定した「環境保全条例」を改正し、今年3月31日に、「豊中市環境の保全等の推進に関する条例」を制定しました。今回の改正の中で、従来の工場等の公害防止をはじめ、地球温暖化防止への取り組みや、開発事業における環境負荷低減のための手続き等を盛り込んでいます。

★条例に新たに盛り込んだ主な内容★

- 地球温暖化の防止
- 自動車の使用抑制及び低公害車の利用等
- 都市緑化の推進
- 一定規模以上の開発事業を行う際の環境への配慮（植栽や雨水利用など）
- 大規模開発などの際の環境影響評価（環境アセスメント）

条例の構成

第1章 総則

第2章 地球環境の保全及びヒートアイランド現象の緩和

第3章 自動車の使用に伴う環境への負荷の低減

第4章 自然環境の保全及び再生

第5章 環境保全審査会

第6章 公害の防止

第7章 開発事業者等の環境への配慮

第8章 雑則

第9章 罰則

市民・事業者と市が互いに理解と協力しあいながら、環境の保全と再生に総合的、計画的に取り組むことにより、現在そして将来の豊中市民が安全で、健康かつ文化的な生活を営むことのできる環境づくりを推進します。



条例のあらましについてのパンフレットを作成しました。

…施行日について…

4月1日から一部施行しており、今後段階的に施行し、平成18年3月1日に全面施行する予定です。

問合せ先：環境部 環境政策室（電話06-6858-2522・2107）

*詳しくはホームページで…

http://web04.city.toyonaka.osaka.jp/reikishu/dbs/frm/hen05/0500000314_frm.htm

とよなか市民環境フォーラム開催のお知らせ！

日時 10月22日（土）10時～16時 場所 男女共同参画推進センターすてっぷ

★第一部 みどりのワークショップ ★第二部 豊中市環境報告書（2004年度中間報告書）の公表・講演会ほか

豊中市の環境について話し合う、環境フォーラムを開催します。ぜひご参加ください。
詳細は、広報とよなか10月号でご案内します。（参加無料）

機密書類リサイクルプロジェクトの立ち上げ

現在豊中市内の事業所では、紙ごみのリサイクルはかなりの割合で取り組まれているようですが、機密書類となると燃えるごみとして出している所も少なくないようです。そこで当NPOではプロジェクトを立ち上げ、機密書類の分量や、処分の方法についての実態調査を行ないます。また、学習会および企業視察などを行い、メンバーによる検討会を開いて、機密書類リサイクルの必要性と有効性（需要と効果）を探ります。

機密書類リサイクルはそもそも市民環境会議ができて間もない頃に、さわ病院が中心となって取り組まれました。それまでは焼却処分されていた病院のカルテを、いくつかの病院を回って回収し、処理工場に搬入するまでを見届けるといったシステムを作り、今も引き続き取り組まれています。その経験も生かしながら、どのようなリサイクルシステムを確立するのが望ましいのかも検証します。来年の2月には検討の報告をまとめ、今後の活動に繋げていきたいと思えます。なお、当プロジェクトに参加してみたいと思われる企業や個人の方はぜひアジェンダ事務局にお問い合わせください。（茨木かづ子）

雨水タンクを設置

環境情報サロンでは、6月24日に事務所裏に雨水を貯留し花の水やりや打ち水に利用できるタンクを据え付けました。容量は250リットル、大阪府がこの夏に展開している「打ち水大作戦」のモニターに申し込んだものです。屋上の雨水の半分が集められるトイから水を取るのでもちよっとの雨でもタンクは一杯になります。

（奥野享）



編集室から

▼朝から蝉の声しきり。集合住宅4階のわが家の窓から騒々しい木々の枝を見渡す。梢の天辺に小鳥が一羽、喧しい侵入者に我慢ならぬかのごとく見下ろしている。なに奴だろうと、早速双眼鏡を持ち出し覗き込む。な～んや雀や。四囲を覗んでいるかに見えた奴が蝉の声に縮こまっているかに見えてきた。（Z）

▼初夏、雷雨の後の夕暮れ。千里川の千本人道橋付近の濁流をカルガモが小さなヒナ6羽を従えて上流へ上っていた。激しい流れに押し戻されても、必死に隊を整えて、段丘にやっと休める所を探しあてるのを見届けて帰った。一ヵ月後、国道より南の流れで、親と見間違ふほど成長した7羽の家族に出会った時は胸が熱くなった。今は何処を飛んでいるの。（W）

▼私が仕事場で使っている（ポリ袋の空気を抜いてシールする）器械からかなりの値の低周波が出ているらしい。マイクロ波ほど強烈ではないが、長時間浴びると害が出ると言われているので、若い人にはこの仕事はさせられない・・・と思いつつ使っている。（Y）

▼体脂肪が減った！ 我家のエアコンはお客様専用。涼を取るのちよっぴら自然の風と扇風機とシャワー。

必然的に汗をかく。その効果か？ 今まで18～20あった体脂肪が16～18になった。皆さんお試しあれ！（N）

▼環境保全条例の全面改正に伴う、規則の改正等の一連の作業そのものは、現在終盤を迎えています。今後、条例で盛り込んだ内容が、市民・事業者の皆様の協力を得ながら、実際の施策や事業の1つ1つに生かされ、その力を発揮していくのでは、と思っています。（R）

▼事務局には今年もインターンシップの学生さんが来ています。昨年は3名で全員男性でしたが、今年はなぜか6名全員が女性です。環境について専門に学んでいる方も多く、お互いにパワーアップできるような機会になればいいなと思っています。（J）

▼韓国で。コンビニのレジ袋は有料で20ウォン（約2円）。ショッピングバッグも有料で50ウォン～100ウォン。袋が要るか訊かれます。娘はマイバッグを持参してショッピング。さりげなくエコでした。（P）

《広報チーム》

Z奥野、W岩瀬、Y小村、N三宅、R大和、J井上、P大村

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~toyonaka/>
Eメール ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp

アジェンダにはあなたの居場所があります

市民環境展



野菜の頒布

市民環境展



紙芝居

市民環境展



お手玉づくり